

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月20日実施)	総合評価（3月10日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①工業に関する専門教科・科目を中心、理数教育及び外国語教育の充実に注力した教育課程編成を行う。</p> <p>②グローバルコミュニケーション能力育成のための教育のさらなる検討を行う。</p> <p>③創造的な問題解決力を育成するため、生徒が主体となる双方向授業を展開する。</p> <p>④実践的・体験的学習を重視して、自ら課題を発見し解決するための力を育む授業改善を実施する。</p>	<p>①神工 STEAM 教育の実践・推進に向け、新教育課程に即した指導計画の作成を行うと共に高大企業連携の充実を図る。</p> <p>②英語教育として各教科においてグローバル教育を意識した取組を展開し、生徒の視野を広げる。</p> <p>③④各教科においてスタディサプリ等を活用し、タブレット利用方法の充実を図る。</p> <p>③④各教科において創造的な問題発見・解決力を育成するための指導方法の研究と充実を推進する。</p>	<p>①STEAM 教育の校内組織図の作成および教員向け研修を実施する。また目的別学習活動コンソーシアムの充実が図れる推進を図る。</p> <p>②グローバル教育について、校内組織図の作成および教員向け研修等を実施する。</p> <p>③④スタディサプリ配信週間を継続するとともに、授業での活用に向けて教員向け研修会を実施する。</p> <p>③④課題研究の内容に課題の発見のしかたや解決プロセスについての学習を組み込むことができたか。</p>	<p>①STEAM 教育の校内組織図を作成および教員研修が実施できたか。また目的別学習活動コンソーシアムの充実が図れたか。</p> <p>②グローバル教育について、校内組織図の作成ができたか。また、教員研修が実施できたか。</p> <p>③④教員によるスタディサプリの課題の配信回数および生徒の利用状況が向上したか。</p> <p>③④課題研究の内容に課題の発見のしかたや解決プロセスについての学習を組み込むことができたか。</p>	<p>①STEAM 教育の校内組織図が完成した。建設科において高校・専門学校・企業が連携したコンソーシアムが締結され、現場見学などが実施されている。</p> <p>②校内組織図については年度内の完成を目指して作成中である。</p> <p>③④スタディサプリ配信では専門教科においても配信が見られ幅広く活用されている。生徒においては英検対策や進路に向けての活用が見られた。</p> <p>③④2学年課題研究の校内での意見や内容を連携先大学・企業と共有し、改善に取組む。</p>	<p>①機械科・デザイン科でコンソーシアムの推進を図る。教員研修会を実施する。</p> <p>②実効性のある組織にするにはどうすればよいか検討する。</p> <p>③④スタディサプリ到達度試験の振り返りなどを通し、生徒が自主的に活用できるように促す機会を用意する。</p> <p>③④2学年課題研究の校内での意見や内容を連携先大学・企業と共に共有し、改善に取組む。</p>	<p>3年生課題研究の中間発表にお邪魔させていただき、ありがとうございました。生徒の皆さん、素晴らしい発想力で、また堂々とステージで発表されている姿に驚きました。これからそれぞれのアイデアを実現していく過程で、これまで工業高校で学んできた知識と経験も活かしつつ、より見識を深め、また、仲間と協業しながら一つのテーマに取り組んでいく中で社会性も身に付いていくように感じ、とても楽しみです。ぜひ、神奈川工業高等学校で学んだ自分たちにはさまざまな可能性があり、自信を持って日々の学校生活を送って欲しいと思っています。そのために、P-TECH 社会人メンターをはじめ、私たちも生徒の皆さんを支援したいと思います。</p>	<p>①本校と東京テクニカルカレッジ及び清水建設株式会社と次世代建築リーダー育成コンソーシアム実施規定を定めた。</p> <p>②英検対策を外国語科の職員が実施し、生徒が合格に向けて努力する後押しをした。</p> <p>②引き続き校内組織図については、作成中である。</p> <p>③④月1度以上スタサブを利用している生徒は38%と昨年度25.3%より向上した（全国平均39.8%）。確認テスト実施件数は、今年度15,978件となり前年7,357件より倍近く増加した。生徒自らスタサブを利用して学習に取り組む傾向がみられた。</p> <p>③④2学年課題研究において、新たに課題発見解決（ReBaLe）の手法を用いた授業用資料の作成ができ、学年全体で共通の内容で授業展開をすることができた。</p>	<p>①全ての工業小学科で高大企業等との連携事業を推進していく（県立高校生目的別学習活動コンソーシアムの推進）。</p> <p>②スタサブや classroom 等の通信媒体を用いた補習を行えるようにしていきたい。</p> <p>②学校全体の取り組みとなるように校内組織図を作成する。</p> <p>③④今後スタサブに「情報」の科目が追加されるため、工業数理基礎などの授業において工業科での積極的な活用を促す。</p> <p>③④新たに作成した授業用資料や展開方法について校内で振り返りを行った。また ReBaLe の連携先企業・大学にも振り返り内容をフィードバックし、パンフレットの改善を検討する。</p>
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	<p>①多様性を理解し、来たる国際社会の一員として活躍できる人間性の育成を図る。</p> <p>②リーダーシップや協働意識を養い、生徒の人間性の育成を図る。</p>	<p>①自他の違いを理解し他人を尊重できる人格・社会生活の考え方を育てる。</p> <p>②学習活動や学校生活等で仲間を尊重し合い、安心安全な学校生活を保障できるよう、個に応じた支援体制を充実させる。</p>	<p>①3年間を見通した講演会の配置。</p> <p>②計画的な基本的な生活習慣指導の実践。</p> <p>②指導・支援体制の充実と対応マニュアル周知徹底</p> <p>②効果的な支援情報の共有が効果的にできたか。</p>	<p>①効果的に講演会を実施できたか。</p> <p>②生活習慣指導を計画的に実施できたか。</p> <p>②指導・支援体制の充実ができたか。</p> <p>②情報の共有が効果的にできたか。</p>	<p>①携帯電話、多様性などの講演会を実施できている。</p> <p>②4,9月に登校指導を実施できた。</p> <p>②特別指導体制について、全職員で指導を行う体制を整えている。</p> <p>②生徒情報の共有や相談しやすい環境を整備することができた。</p>	<p>①講演会の目的を明確にし、適した講師、時期を検討する必要がある。</p> <p>②生徒の指導を通年かつ職員全体で行う体制および意識改革が必要であり、その方法について検討・改善に取り組む。</p>	<p>神奈川工業高校での学びが更なる学びや社会に直接繋がっていることを生徒自身が実感し、自信を持って学び続けることができるよう現在の学校運営の継続を期待しております。</p>	<p>①1年：スマホ安全教室、多様性講演会、性講演会 2年：デートDV 交通安全教室 3年：薬物乱用防止講話を実施できた。生徒アンケートでは平均70%が有意義な時間であったと回答している。</p> <p>②生徒に寄り添った特別指導を行うことができた。</p> <p>②生徒支援の手引きを時代や学校目標に合った内容に改定した。</p>	<p>①生徒のニーズに合った講演内容を提供してくれる講師の選定を検討する。</p> <p>②服装指導、基本的生活習慣、遅刻指導において具体策を検討し継続した指導の実施を目指す。</p> <p>②支援を必要とする生徒情報の共有機会の充実を図り、早期対応を目指す。</p> <p>支援体制に対して全職員への周知とスムーズに実施できるシステム化を目指す。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月20日実施)	総合評価 (3月 10日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	①生徒のキャリア発達を、正しい勤労観や職業観に基づく進学する意味や就職する意味について、十分に理解した段階まで引き上げる。	①生徒のキャリア発達の醸成を家庭からも促す体制を整えて、家庭と学校が連携して生徒のキャリア発達を支援していくようとする。	①現行の進路セミナーに加え、デザイン科1・2年生に総合・推薦型入試準備セミナーを実施する。 ①新たに公務員講座や鉄道就職希望者講座等を実施する。 ①全学年保護者対象の進路指導説明会の実施。3年生は進学と就職希望とに分けて実施。 ①18歳成人に伴う「シチズンシップ講演会」の実施を検討する。	①デザイン科対象総合・推薦型入試準備セミナーが実施できたか。 ①公務員講座、鉄道就職希望者講座等を実施できたか。 ①3年生保護者対象進路指導説明会を進学向けと就職向けに分けて実施できたか。 ①シチズンシップに関する講演会を実施できたか。	①デザイン科1・2年生に桜美林大学と連携した総合・推薦型入試準備セミナーを企画した(3月実施予定)。 ①立志舎グループと連携して、鉄道就職希望者を対象に対策講座を実施した。 ①3年生保護者対象を進学希望者向けと就職希望者向けに分けて実施するため、1年生対象を入学式の日に実施したが、少し内容が薄くなってしまったので、改善の余地がある。	【進路実績が充実している】学校要覧 p.71 「卒業生の進路状況」で、卒業生数と、学校紹介による就職者+進学者数の数が対応していませんでしたが、残りの生徒の状況もわかるとよいと思います。	①デザイン科1・2年生に桜美林大学と連携した総合・学校推薦型入試準備セミナーを実施する事ができた。 ①立志舎グループと連携して、鉄道就職希望者を対象に対策講座を実施する事ができた。 ①3年生保護者対象進路説明会を、進学希望者と就職希望者に分けて実施する事ができた。 ①3年生保護者対象進路セミナーを企業を招いて実施する事ができた。	①引き続き、来年度も桜美林大学と連携した入試準備セミナーを実施したい。 ①引き続き、立志舎グループと連携した鉄道就職希望者対策講座を実施する。 ①来年度は、1~3年生の保護者対象説明会を一昨年に戻して、1学期中間試験期間に実施する。 ①3年生保護者対象進路セミナーを来年度も実施する。	
4	地域等との協働	①各種連携や地域との協働を通した生徒の創造的な問題解決力を養う。 ②専門高校の教育内容や理工系進路においての他学科に対する優位性を地域や中学生に理解してもらう。	①中学生とその保護者に向けて本校の優れた実践とその成果を発信し、専門高校のイメージ向上を図る。 ②進路情報に加え、専門高校の教育内容やITを活用した取組を発信する。	①学校紹介動画のリニューアルやSNSで行事の予告などの広報活動を通し、中学生に本校の魅力を伝える。 ②Webページの進路の部分の更なる充実を図る。	①新入生にSNSの利用状況などについてのアンケートを実施データから広報計画を立てたか。SNSの更新が円滑に行えたか。 ②Webページの進路の部分の充実が図れたか。	①学校説明会の方法を再構築し、誘導含め滞りなく実施できた。SNSによる的確な情報発信も行い、中学生と保護者に対し、効果的に広報することができた。 ②Webページの進路の部分の充実が図れた。	①説明会の方法について、アンケートなどの意見から変更点の検証を行う。 ②更新のタイミングが遅くなってしまったので、3月末には更新できるようになりたい。	神工祭にお邪魔しました。機械科、電気科、建設科、デザイン科、それぞれ身についている専門性の過程が展示や実演、説明などからとても良くわかりました。さらに来場者や生徒自身楽しんで貰うための体験型の出し物の中にも技術レベルの高さが感じられ、とても驚きました。	①学校説明会について、放送による全体会を追加し、その後に各科の見学を行う内容に変更し実施することができた。また生徒会Grと連携し、生徒によるSNS更新の計画立案をした。 ②Webページの進路の部分の充実を図ることができた。	①コロナ後の文化祭などの行事に地域の方や中学生が来れるようになつたため、説明会や体験教室の実施時期の調整を図る。 ②Webページのさらなる充実に努める。
5	学校管理 学校運営	①創造的な問題発見・解決能力及び先端技術活用力を養う教育活動のための環境について、より一層充実させる。 ②生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①教員のICT機器を活用した学習活動および実践の充実に向け、研修等を通して、活用スキルの向上を図る。 ②デジタル採点ソフトを導入し、定期試験の採点業務の軽減・活用ならびに採点ミスの防止を図る。	①生徒が購入した1人1台端末を活用した授業展開の工夫、教材研究の推進を行う。 ②定期試験の採点におけるデジタル採点ソフトの使用率を、定期試験を実施する科目的講座数比で、5割以上にする。	①生徒が購入した1人1台端末の授業での活用状況。 ②デジタル採点ソフトの活用状況。	①今年度入学生からwindows端末を導入し、officeソフトを活用できる機会を創出した。プログラミング学習、プレゼンなどのツールを活用した授業展開が期待できる。 ②共通教科におけるデジタル採点の使用率は増加している。今後専門教科の使用率も含めた5割以上の使用率を目指す。	①officeソフトは県教育委員会の包括ライセンスとして無償で提供しているが初期設定は全生徒、教員による個別対応のため業務負担圧縮となるような工夫が必要。 ②デジタル採点の使用方法に関して講習会の機会を設け使用率アップを目指す。	職員連絡Teamsを活用して効率化と記載はありました。他にも様々な施策をなさっていると思いますが、頂いた資料からだけでは判断できません。また、「最適化」というと非常にハードルが高いので、「効率化」を積み重ねていく対応がよいかと思います。	①今年度から導入したwindows端末を活用した授業、特に実習等での活用が確認できた。しかし、家庭学習における端末の活用が少なく更なる工夫が必要である。 ②共通教科の教員の5割以上がデジタル採点を活用し採点に関する工数を1/3以上削減している。専門教科においては多くの教員がデジタル採点未活用なため使用率アップの工夫が必要である。	①家庭学習における端末を利用した課題の作成、配付等の工夫を図る。 ②専門教科職員向けデジタル採点利用講習会の実施を行い、その利点を理解してもらう。